



R.シュトラウス:メロドラマ《イノック・アーデン》

『イノック・アーデン』は、19 世紀英国ヴィクトリア朝の詩人アルフレッド・テニスンが、1864 年に発表した物語詩である。愛する妻子のため、遠い異国へ出稼ぎに行った船乗りのイノック・アーデンは、帰路に難破して長い漂流生活を経たのち、ようやく故郷にたどり着く。しかし妻はすでに幼なじみの友人と再婚して幸せな家庭を築いていた。それを見たイノックは、身を引く決意を固め、彼らには帰還を知らせないまま死んでいく。

幼なじみ 3 人の愛と友情を描いたこの物語を、シュトラウスはピアノによる背景描写や心理表現に乗せてセリフを朗誦するというメロドラマの形で音楽化した。歌曲やオペラとも違い、むしろ演劇に近い独特の魅力がある。この作品は 1897 年、舞台俳優エルンスト・フォン・ポッサルトの求めに応じて書かれたもので、ポッサルトの朗読とシュトラウスのピアノ伴奏により各地で披露され、好評を得た。